續談海

安永八年

五十八之六十

內閣文庫

和書 類

三四五四一 號

三一 冊

一五〇 函

一大 架

三十二ホ

內閣文庫

番號	和34541
冊數	31(23)
函號	150 94

五十八ノ六十

国立公文書館
National Archives of Japan

続泥海巻之五拾八

安永八己亥歳

一 正月元日二日年始御礼如例年

一 同三日出官之御礼如例年

一 今晩御謡初如例年

御番組

老松　観世大夫　三郎右衛門　清次郎　九右　市右衛門

東北　弥五郎　市之丞右衛門　彦九郎　庄右衛門　甚右衛門

高砂　七大夫　三太郎　清五郎　又六

弓矢立合　久右衛門　新九郎　吉右衛門

秘閣図書之章
日本政府図書
浅草文庫
内閣文庫
閣 150

一 正月六日於奥御座之間

一 同七日若菜之御祝儀如例

羽目之間

一 伊勢御馬代

金弐枚　壱枚内宮　壱枚外宮

一 日光御馬代

例ノ御太刀弐振

金壱枚

一 仙波御宮御馬代

例ノ御太刀一振

金壱枚

右御名代高家江被仰付　高家　大沢下総守

金拾枚時服三羽織

右伊勢御名代御暇　同　六角越前守

金拾枚時服二羽織

右京都御名代御暇　同　戸波大膳亮

金五枚時服弐

右日光御名代御暇　同　由良信濃守

金弐枚

右仙波正遷宮之付御名代御暇

右大猷院殿御忌法会ニ付御出座

揃々同
諸稽古
御拝見
右御礼

内宮禰宜惣代　中川和泉
外宮禰宜惣代　中西外記
内宮年寄惣代　猪飼隼人
外宮同断　足代式部
伊勢御師　春木大夫
山本大夫

一　同九日
御能
御拝見　同断
同断

一　大納言様小松川筋江為御鷹野被為成
一　同十日　上野表　御霊屋
御位牌所江入御ニ付御立寄被為成
一　同十二日御具足御祝儀如例年
御連歌
山何
幾代にも恵のさかへ松の花　法眼昌桂
梅さへかほる春の風そ　御
池水の台も深くかほるゝ　昌文
音すめる波の月に（水）靄ゆく　其何
浦遠く岩のこすや秋ならん　信隆

作られぬ小田のくろ／＼　昌億
一筋の道して里のさかひあり　清白
夏草にまじる山の下荻　通故
いつしかに照射さつの暮れて　白鳳
行衛しる気はしうすれ行もや　仲泰
須ぬとよしるとげなき竹の実　永為
寐もやらし秋の月のくもるらん　昌周
小夜衣寄る俤つくる人まちわびて　昌琢
友よ○よわりしもとて帰ゆ　昌逸
山寺残送りし後も秋ましまし　長挿
右御一巡

於吹上御庭法楽賦物
村千
御書院番頭久貝因幡守組
○○朝比奈甚左衛門
同組
○○本多源八郎
御小性組番頭大久保能登守組
○○松平主税
同
○○榊原左五郎
岩瀬備中守組
小普請組大久保出羽守支配
飯室三郎兵衛
同
永井監物支配
○○東條権太夫

御書院番頭小姓組番頭兼帯
○○ 福村小吉八
御小性組頭大御番頭兼帯
○○ 門山茂十郎
同 岡野備中守組
○○ 高山三右衛門
同 小幡河内守組
○○ 大屋甚四郎

一 右之面々翌十二日ニ而右今義究之と
一 同十二日浅草御蔵ニ大ツ半時之御御鷹野ニ被
成 御供
右近将監
出羽守
石見守

一 正月十七日紅葉山 御宮ニ 五ツ半時御参詣被為
之御成
一 同廿日
大猷院様上野 至心院様 心観院様
崇源院様 御霊屋ニ入來時過之御成
一 同廿一日
大猷院様入ツ時ゟ五ツ二ノ白箱ニ而御鷹狩之御
成候
一 同日 尾張殿亭ニ年始為御祝儀老中拍請
一 周防守ニ今度改石見守ニ可申一州織
一 同廿四日 増上寺 御佛参之 御出之処雨ニ而延ニ

御定り

一 同廿六日　上使井上河内守
巻物十
一種一荷　松平加賀守
右加賀守より数千代并巻物子ニ仰出ト付ニ
申し

一 同廿八日 同並ニ御礼申上
御白書院
巻物子ニ　何れも御礼
同加賀守巻物子　松平加賀守
松平数千代

御修多分院呪　伏見奉行
和 小堀和泉守
金子拾枚
時服拾
但津修相勤之支度之間
上使京和泉守
日光准后

一 正月廿九日
銀百枚
時服五
右当月於御祈禱料としてこれを被下
第二之間縁頬
出合
阿部式部

右之外月上野

宗慶院様七回御忌御法事中勤番之
仰付之
松平相模守
美濃伊勢川々之御普請御手伝之　仰付之
於御次、大的上覧
姓名中り附
御小姓組岡野備中守組
○○安藤靱負
○○曲渕勝次郎
○○森本若之助
同　浅野備前守組
○○石丸定之進
○○久松陝之丞
○○赤井多大夫
西丸小姓組戸田出雲守組
○○御手洗五郎兵衛
○○本多源兵衛
●○杉浦市郎
同　大久保能登守組
●●能勢菊三郎
●○戸川鉚次郎
●●長谷川三猪
同　小笠原河内守組
○○戸田織部

○○石原勘右衛門

●○松平六十郎
同役組水野河内守組

●○花房仙太郎

○○井上千吉

○○石川弥次郎

小十人川村三平組

●○岡本源之助

●○今井元次郎

○○木村四郎右衛門

門

鵜殿式部組

●○早川次右衛門

○○遊佐求太郎

○○沢吉次郎

門

前田半左衛門組

●○杉山大助

○○大村孫八郎

○○小林寿左衛門

門

長坂左膳組

○○飯塚市左衛門

○○伊藤孫十郎

○○山田政次郎

門

酒井平三郎組

○○安藤八右衛門
○○佐藤小左衛門
○●桜井弥八郎
小十人金沢左衛門組
○○有泉甚四郎
○○松本茂右衛門
●●堀内小十郎
同
久世伊豆守組
●○柴田久十郎
○○水上八蔵
○○依田久次郎
右白黒印

一 正月晦日 増上寺 惣御霊屋 六ツ半時
御供揃ニ而 被為成
大猷院様 紅葉山 惣御霊屋江 六ツ半時 御成
被遊候
一 当月ニ而 就 御流鏑馬 御張有之候
御張明細書
高橋
今春丹波守子
今春八左衛門
今春右京
一方能子
建部内匠頭名代 九郎右衛門
万作
清右衛門 又三郎
同断
山田作右衛門
伊右衛門子
角野峯次郎

八幡のまへ　孫右衛門
同　志村倉谷武右衛門
三好徳右衛門
松波小兵衛
紀世右衛門子
己之梅若七郎兵衛
決之丞
植右衛門子
山田茂右衛門
正七
八嶋
植右衛門
同
岸熊三郎
正太夫
孫右衛門子
倉谷八三郎
仁右衛門子
長命勘兵衛
同
墨染
仁右衛門
金剛右衛門子
己之幸若太郎
大金剛右衛門
市郎兵衛
右近
同
矢田八郎右衛門
熊坂
春右衛門子
長命宗
春右衛門
清次郎
文六郎

文蔵
仁右衛門
名次郎
東岸
茂右衛門
植三郎
市右衛門
同
仁右衛門子
矢田清右衛門
七右衛門子
多方村市次郎
富士太鼓
七右衛門
万作
三右衛門
小八郎
同
六蔵
孫右衛門子
高志右衛門
源腰
孫太郎
孫右衛門子
大蔵
同
大蔵弥右衛門
半四郎
金右衛門子
自然居士
八右衛門
六右衛門
五郎兵衛
四郎次郎
熊八郎

同
六右衛門弟子 大島根七十郎　仁右衛門弟子 吉村茂右衛門
孫二郎弟子 母 矢八松江門
同断 早乙女今春九右衛門
立花 同名亀之丞
大佛供養　孫四郎弟子 平右衛門 物大郎 金蔵 勘兵衛
同 松本松右衛門
同 巳野吉助
同 日吉源之丞
同
乱 観世左大夫　久右衛門 三郎右衛門 彦大郎
孫右衛門弟子 大蔵孫兵衛　惣右衛門 庄兵衛

一 正月十八日霊元奥御能細書
観世左大夫弟子 前田矢助大夫 天女 梅若七郎左衛門
九世戸　観世大夫
久右衛門弟子 山田孝右衛門 久右衛門 清兵衛 小八郎 三右衛門 西岩右衛門
同
同断 幸村文六
孫右衛門弟子 倉若八郎
猩猩 孫大夫
孫右衛門弟子 次右衛門 三好徳大夫
猩猩 同断 高木吉右衛門
猩猩 同断 倉谷源六郎

又三郎
知章　茂兵衛
七郎兵衛
三太郎　又三郎
作左衛門子
角世彦次郎
間
惣八　貞吉
貞右衛門子
三　寺田茂兵衛
今春大夫　六左衛門子
田村市郎左衛門
采女　六右衛門
九郎次郎
新九郎　三之丞
日向
茂兵衛
間
孫右衛門子
松波小三郎

二王　傳右衛門
伊右衛門子
利兵衛
中村三之丞
三代
〃名女川六左衛門
五郎
〃中村平右衛門
〃名女川吉右衛門
〃成井源七
〃村織吉次郎
〃松原小十郎
〃名川宇之丞
三郎右衛門
六蔵
仁右衛門子
岩村茂右衛門
後藤　孫太郎　新之丞
間

観世大夫子
頼光　梅若六郎
独武者　日吉十右衛門
小蝶　梅若五郎兵衛
土蜘　後シテ　座
間
悪眼人　仁右衛門
同　宝蔵次兵衛
万作子　山田次兵衛
五郎七
権三郎
孫三郎子
庄兵衛
勘兵衛
山本茂兵衛
仁右衛門子
長命勘兵衛
三郎　矢田次郎兵衛
三郎　岩村茂兵衛
角　地岸三郎
辻　政次郎
浦井　幸吉
井周　助

金剛大夫子
子　日吉九十郎
海人　金剛大夫
大夫郎子
大友吉兵衛
長太郎
大三郎兵衛
清次郎
新三郎
又六郎
間
同
長命宗右衛門
伝兵衛子
中村一兵衛
七大夫子
祐成　源右衛門
時致　ご沢長右衛門
鬼王　源兵衛
古屋　吉次郎
黒川　市兵衛
夜討曽我
若林孫次郎
村上宇兵衛
松田長次郎
大塚平兵衛
間
七大夫
九郎次郎
四郎次郎
一兵衛
孫兵衛子
幸能
孫左衛門
同
豆安
源兵衛

一 正月廿八日御門注候之覚

甲府勤番渡辺出雲守支配
勝沼平八郎
亥三十九才
長田勘解由
亥四十才

一通り吟味之上
揚屋入

右勝沼平八郎方ニ居候
荻田昌敬
亥廿七才

一通り吟味之上
揚屋入

黒川兵部府内代官所
甲州巨摩郡荊沢村
名主
吉太郎
亥六十三才

一通り吟味之上
村預ケ

日ノ親文蔵忰
代り 日国 同郡
青柳村
吉兵衛
亥四十二才

甲府勤番支配
勝沼平八郎中間
実助
亥廿七才

同
長田勘解由中間
七助
亥廿九才

一通り吟味之上
牢内ニ遣候

甲府町役人方居
孝之助
亥廿二才

小東新青沼町佐七店
手習師
孫兵衛
亥三十二才

右於評定所大屋遠江守曲淵甲斐守末吉善太郎
立合遠江守甲斐守申渡之

一
二月二日亀右仕物ニ御仕置ニ相成五ツ時ニ而
成ル

芙蓉之間
高家
吉良左京大夫
代り
宮原和泉

一 右之姫宮 御誕生ニ付 之為之 可被
用意旨 佐渡守殿ニ 御渡し

一 同 四日
大網之脇目黒筋ニ而御鷹野五ツ時ニ而
成御

芙蓉之間
御目付
大久保甚右衛門
金壱枚
時服二羽折

一 右濃後川之儀筆濃御用ニ付 上ニ付 旨
御老中御列座 佐渡守殿ニ 御渡し

一 二月六日
御右筆組頭
近藤甚一郎
御佐渡大久保能登守組
時服三
右之者二日長髪筋御成之節ニ而右ハ村留御ニ付ニ旨
御老中御列座 佐渡守殿ニ 御渡し

一 同八日
羽目之間
高家
吉良左京大夫
金弐拾枚
時服二羽折
右姫宮御誕生ニ付京都ニ而ニ付上ニ付ニ旨
御老中御列座 佐渡守殿ニ 御渡し

一 月九日於吹上騎射 上覧姓名中り附

六 三浦[illegible]三郎
六 角南主水正
六 山田主計
六 青木長九郎
六 松平備中守
六 竹川主税
四 菅沼好次郎
六 杉山荒之助
六 出井三下左膳
六 久貝又三郎
六 瀧名源太郎

五 三浦鉄三郎
六 多門靱負助
三 落合修理
五 田中宇左膳
六 間宮左膳
四 三淵靱負助
六 加藤八十五郎
四 永井多三郎
六 筧孝之助
四 新見大炊頭
六 鈴木大助

六 出井平助
三 松浦彬之助
五 津川市郎
三 多賀三右衛門
三 宅間伊織
四 依田三右衛門
三 柘植左京亮
六 三宅惣九郎
六 萩原猷次郎
五 安藤久右衛門
四 青山三右衛門

一 二月十一日　鵜沼之間
四 和田千左衛門
六 松田七郎右衛門
甲府勤番
渡辺図書頭支配
松平利三郎
矢田兼次郎
富田小膳
渡辺兵三郎
諸指扱宛
右は御用ニ付旧冬ゟ駿河表長田三郎右衛門出府
被仰付候ニ付下旬御中山御備被渡書役之仰渡し
一 同十三日演武庭江八ツ半時ゟ御成

一 上使 松平周防守

白銀五拾枚
巻物二拾 松平肥前守

右御暇ニ付以上使被下之

勅使 帝鑑之間 相馬因幡守

院使 秋月山城守

代り 鍋島和泉守

右公家衆御馳走人ニ付

一 二月十六日 今日 時服三ツ宛 御作事奉行

室賀山城守

右日光御宮御門霊屋等 本坊御修復御用ニ付

下野御暇ニ而拝領

一 同時両丸江 公方様之御成 九ッ時 還御

但シ御成ニ付 御老中御側小袖麻上下 西丸御目見斗

麻上下ニ而出仕

一 同廿日 上野 常憲院様 七回御忌 法事

右御拝借ニ付 御名代 右京大夫

白銀五拾枚
時服十 御使僧ゟ 日光准后

白銀百枚 同 日光新宮

右御門跡ニ付被下之

一 去ル十二日 濱御庭ニ而 御成之節 小普請組之面々

家筋 上覧姓名

奥田美濃守支配十壱人
勝田彦三郎
丹羽左近
朝比奈金右衛門
村上八郎
岡野孫七
逸見三之助
佐久間修理
本多喜八郎
岡田雄太郎
大井安太郎
井出茂次郎

戸川山城守支配十八人
中根栄之進
荒木甚十郎
平石鉄太郎
板橋平次郎
筧富之助
立花甚次郎
成瀬孫太郎
日比野孝次郎
三浦俊次郎
山名十郎右衛門

永井亀次郎
小花和内膳
浅野辰次郎
吉田富三郎
蜷川兵三郎
吉田舎人
次發桂太郎
大久保岩太郎
御廣敷之支配八人
御田辰太郎
曽根孫之丞

黒川玄蕃
長坂右膳
松浦求馬
神保伊之助
毛利端次郎
小笠原三斗
久留御教馬支配八人
神尾伊兵衛
日向主税
小野甚三郎
小出政太郎

山名兵次郎
飯室三郎兵衛
門奈富之助
須藤新十郎

牧野内匠支配八人
筒井左膳
久貝又三郎
永井甚次郎
中根甚三郎
生駒文左衛門
武田権之助

[illegible]安太郎
大久保平吉

永井監物支配拾二人
跡部伝三郎
永井九右衛門
加茂禎太郎
依田三右衛門
曾根孫之助
城[illegible]助
大鴻織之助
塚求馬

新見源六郎
植村作太郎
日下半之丞
三枝源吉
樺嶋又次右衛門

仙石源之丞与力死七人
長井又右衛門
富沢小之助
矢部民次郎
大久保仙之助
佐々木吉次郎

酒井七次郎
保々富之助

長谷川利十郎与力死十人
山中勇之丞
松平十太夫
松平作三郎
今田伊右衛門
坪内半三郎
渡辺村十右衛門
羽生清右衛門
大河内十次郎

芦根寅之助
久保勘三郎
小笠原壱岐守支配死十二人
関根雄左衛門
青山丹下
荒坂勘次郎
松波八百之丞
小池栄之助
建部宅之助
小出広之助
大岩三平

菅沼主膳正支配死十二人
戸張貞吉
東條新十郎
多門大七郎
蜂屋富吉
鳥居左門
雨宮清三郎
滝口造酒之助
喜多村斧三郎
宇都野乙之丞
下河三蔵

秋元新右衛門
芦谷孫八郎
細井富之允
桜井孫太郎

松平志摩守支配七人
中川主税
松平喜次郎
飯河伝四郎
長坂権九郎
服部富蔵
戸川藤十郎

宮城久三郎支配九人
坂部助九郎
三好喜三郎
大岡七三郎
松平新太郎
織田弥右衛門
揖斐七之助
久保甚十郎
多賀金蔵
山田大膳
細井隼人

御人数百弐拾壱人
上使ニ付下馬先
小普請支配七人
戸川山城守
深津式部
永井監物
仙石弥兵衛
長谷川利十郎
松平志摩守
宮城久三郎
同組頭十弐人
奥田
坂部左五右衛門
戸川
筧弥左衛門
深津
松平小膳
久留嶋
中川勘三郎
牧野
石丸内膳
永井
永井助九郎
仙石
永田兵左衛門
長谷川
滝川市郎兵衛
小笠原
植村平六郎
芳賀
小栗又左衛門
松平
松田勝十郎
宮城
川口文十郎

一 二月十一日夜半比ゟ大根畑松浦壱岐守様小路
出火、小屋敷一軒焼ル

一 同十八日朝ゟ浜町辺出火、吉川町迄焼ル

一 同廿一日
大御所様五ッ時御供揃ニ而新井薬師江 御成之所
御成場先ニ而御不快ニ付御入用之由、表向御沙汰
無之、御供若年寄衆并御側衆御医師
ゟ右之趣御届ニ右之趣届若年寄丹波守殿御側衆依田
ゟ右之趣申上ル由

御右筆組頭衆

御書院番頭衆伊豆守殿

木村半九郎

右写抜之

一 右去ル十二日御成之節ゟ御不快ニ付、御
側衆中御列座御渡被成候、依之若年寄衆
侍座

一 同廿二日
諸司代牧
御使 大沢下野守
日光准后

一 右大御所様御不例ニ付為御祈祷料以
上使ヲ以被遣之

一 同廿四日
大御所様御勝不被遊候ニ付 御機嫌 西丸江
惣出仕有之、御本丸ゟ西丸江出仕有之候 半
大御所様御不例御養生不被為叶今巳ノ中

一 御葬送御用相済候付於中間 右京大夫周防守
殿江 御渡候 右之者共御内御機嫌 御伺九日
登 城ニて仕舞候ニ付人々江 御渡し
一 右之外御書附出之候
一 大納言様御葬送御用 明廿六日五ツ時出棺ニ付
今日ゟ普請鳴物停止ニ相成候間追て相達候迄
右之通 可被相達候
御葬送掛り之 面々
御出棺御道筋御用之 節
寺社奉行
牧野豊前守
板倉佐渡守
加納遠江守

大目付
土岐美濃守
新庄能登守
御勘定奉行
山村信濃守
小普請奉行
岩本内膳正
御目付
村上三十郎
山川下総守
安藤郷右衛門
右御用之節 御付
凌雲院大僧正

右御葬送之儀ハ　御免之

御触書

二月

廿六日　惣出仕　　　　　廿七日　万石以上之面々

廿八日　万石以下　　　　廿九日　御溜詰　御譜代大名

右之通為伺御機嫌出仕候而可相勤候

二月

奥御右筆組頭

橋本喜八郎

同表右筆

伊藤百助

大前熊次郎

清水半十郎　御用ニ付

右之通ニ御座候

一　二月廿八日

大猷院様薨御ニ付惣出仕有之

一　御触書左之

松平加賀守　溜詰　御譜代大名　高家　雁之間詰　同詰

御奏者番　菊之間縁頬詰　諸番頭　諸物頭

諸役人布衣以上之面々

一　右御初七日迄月代剃申間敷候

一　五位諸大名并嫡流部屋住大名交替寄合書院番家

寄合小普請之面々

一　右五日過迄月代剃申間敷候

御目見以下之者共坊主同心以下悉者共迄

一 右三日之内代判ニ而申ル
　但病臣者月代判被構無之
西丸附之面々者御目見之以上者五揃日之
御目見之以　二十日之内代判ニ而申ル
　但御一七日之西丸附御出之面々登判涪
　但月代判一ト申ル
一 右之通ニて相触候
一 同廿七日御触書
一 大納言様薨御ニ付普請者来月七日迄鳴物
同十日迄停止ニ候間得其意可相触候
一 同廿八日御触書

二月
晦日　惣出仕
（三家一門之面々同門嫡子
御奏者番同嫡子
諸大名嫡子
諸大名役人寄合）
三月
朔日
四日　（御禮出仕衆
御目見以上外様者布衣以上）
五日　（御禮
御奏者代百石）
七日　惣出仕
九日　（三家一門之面々同門嫡子
御奏者番同嫡子
諸大名嫡子
諸大名役人寄合）

十日　酒井出持参流
風邪以上ニ而為代大名

十二日　被出仕

一　御心清気出仕不及

一　右之通り御機嫌出仕被成了と承候

晦日

法右筆部屋御案内

御組頭　根本若右衛門

表右筆　熊沢若之丞

長谷川民之助

肥田讃右衛門

御勘定　若林市右衛門

小普請方　清水又八

松浦文右衛門

添奉行　神戸治太夫

同御勘定　幸蔵兵太夫

小普請方役　今江太郎兵衛

御勘定　菱本兵吉

田辺仁左衛門
松井新九郎
根岸吉太郎
福嶋又四郎
門倉三郎右衛門
平井十兵衛
支配勘定

一 右ハ御出役御見送御用ニ付 被仰付

一 今日詰合ニ而本家以上之御役人江旅席
御菓子ニ而被下

雑談

色白ニ男のよいハ芝居ものの比丘尼ハ丹波 久八
雲伯ハさんをもまてよれる百年めにめて伐りて玉子也
日本ニ向ひいちあかし称き人あれとも了方石さ律田と麁
もと屋云

体まん的　　二芝居
むかし志ゆうい金　　根津の宮枕
こよみもしかと合せ　　小枕檢約
おさしハよ　　西ノ女中
西ニ行ハ　　東之の損
勘孫また　　芝居の行てうる損
東海寺また　　七日のすちまいる損

猩々
芭蕉
雲林院
花の咲猿
すへひろかり猿
立身の付猿

一 二月二日　芙蓉之間
右之御饗応并御能中勤之　仰付候
秋元摂津守
松平紀伊守
新番所当番
御留守居
霊元院御法事御用
高井土佐守
神保和泉守

御目付
日下十郎右衛門
末谷岩右衛門
右同断　仰付候
右之通　仰付候
田沼主殿頭
米倉丹後守
右霊元院御法事御用掛奥之　仰付之旨溜也
一 同四日　御能書出ル
一 御出之節御供之面々布衣以上之者麻半目長袴
布衣以下者麻半目半袴
但之麻半目之外地白縫紋之者ハ　且又上下茶小紋

之義ニ就ても御備立候分ハ

一 御出棺之節御道筋ニ挑灯焼火桶出シ候事
但シ挑灯焼之役附方ニ而掃除之用ニ付候事

一 御道筋両側之屋敷茶屋之類ニ而も不及事

一 窓蓋一ト仕事

一 右之趣向々ニ可被相達候

三月

此度東叡山 御霊屋 御造立ニ及
常憲院様 御霊屋ニ 御相殿 御霊牌
有徳院様
御安置遊候ニ付 仰出ニ而 御宝塔之儀

一 御代々法様之通 御造立ニ而可有之候
右之趣 仰出候旨ニ付 此度寺社ゟ 可相達候

三月

芙蓉之間
御勘定奉行
山村信濃守
小普請奉行
岩本内膳正
御目付
村上三十郎

太上野

常憲院様
有徳院様

御霊屋　御相殿之御作出入

御霊屋清被候處此度　御宝塔御普請

掛り之御作事

菊之間縁頬

交代寄合

寄合

平野丹波

前田連三郎

巨勢俊之丞

河野靭負

上野御法事中

火之番被仰付

一　三月廿日　西丸御用向壱岐守殿より後方被申上候

御徒之頭被仰渡候後日中之口より　是又西丸若年寄

衆中之口御徒之儀ニ見分中之口より堀帯刀殿相勤

續淡海巻之五拾九

安永八己亥年

一 二月六日 芙蓉之間

大坂町奉行 土屋帯刀

金五枚時服弐羽織

依御用中ニ付而目見無之

右御暇被下旨於老中列座主殿頭殿ニ而被仰渡之

土屋帯刀

右之通ニ 被仰付旨御同人江被仰渡之

諸大夫 駿河守殿

一 布衣以上以下 御目見以下之者迄惣領江而男子

以下之 御徒方迄今々之

一 三月十日 御觸書出ル
一 同十九日
未ノ下刻 御出棺
亥ノ下刻 御葬送
右之通ニ付 候出之
大猷公様 御葬送 御道筋
山里腰木御門ゟ吹上御門大道筋矢来御門ゟ
竹橋御門一ツ橋御門外大炊御殿鍋島左衛門佐屋敷
屋敷前通リ内藤伊之屋敷前稲葉丹後守
屋敷前戸田因幡守屋敷前筋違橋御門外神田
仲町縁町通リ大関淳正屋敷前井上河内守屋
敷前新黒門ゟ文殊楼前大慈院前通リ松平
大師堂脇矢来御門通リ合祭前堂ニ御入又
寺中

一 同廿日 芝参之間
大御番衆
金子弐枚
時服三ツ
羽織
青木甲斐守
稲垣長門守
右二條在番御暇ニ付下着有御老中依列座ニ而被成
於候渡之
銀拾枚
時服弐ツ
躑躅之間
青木甲斐守組与力
松平出雲守

根来組
与力計り

名取半左衛門
布施八郎右衛門
山本吉左衛門
稲垣長門守組与力
杉浦茂助
同 伝五郎
同 与惣右衛門
小川喜太郎

同断

一

右同断ニ付主殿頭殿御出座相済候
御太刀目録頂戴
御勘定組頭
豊田金右衛門

御材木奉行
篠木勝之助
前本豊前守 風呂兵馬 小笠原三九郎
篠田五郎右衛門
支配勘定
同 萩田久右衛門

右東叡山 御霊屋 御建継 御宝塔 御用
見分役 悟付之

一 三月十二日
御忌明ニ付来ル十四日御出仕之事ニ付 御礼之
松平薩摩守
松平弾正大弼
松平左近将監

松平左京大夫
上杉弾正大弼
松平摂津守
有馬上総助
丹波加賀守
酒井雅楽頭
戸田采女正
内藤紀伊守
内藤丹波守
本多淡路守

保科弾正忠
本多弾正少弼
本多紀伊守
小笠原佐渡守
松平日向守
榊原式部大夫
水野中務少輔
奥平美作守
脇坂近江守
鳥居播磨守
稲葉能登守

相良壱岐守
毛利和泉守
織田左近将監
中川内膳正
津軽出羽守
佐竹栄之助

右御中陰中為窺　御機嫌無滞出仕之段及達
御聴　御機嫌候段　賞ニ此段可申旨　上意之趣於席
老中列座主殿頭申達之

一 同十四日　御忌明ニ付惣出仕有之

一 同十五日　月並登　城　揃四ツ時揃

一 御表出御無之
　　　　御納書出ル
於東叡山法讀所深徳之廟
　侍従　埋団之内下より壱番目
　四品　埋団之外下より壱番目
　諸大夫　同断　上ゟ弐番目
　布衣　同断　上ゟ壱番目
　無官　同断　上ゟ三番目
右之通ニ而列ニ而揃其座ニ而
　法読所御法事中
本坊表門右之両角張出ニ罷在

上野二ツ橋際　下乗所

下馬所

一　三月十九日晴天昼過曇り少雨右刻風出又止晴静

今未ノ刻西丸ゟ御出棺

西丸ニ
御名代　右近将監
大手御門迄　御見送

御供　佐渡守
西丸ゟ上野迄歩行　酒井飛騨守

御供　佐野右兵衛尉
同断

御供　豊後守
同断

一　今日法会之面々退出之後　・西丸　御出棺相済候而
退出之事

一　来廿日法会之廉今日西丸ニ御沙汰之事

一　同廿日　御出棺相済候ニ付而同

御棺通相済候而　酒法之高家房之男法御参着
其外出来之間法役人出仕有之

一　同廿一日

一　御法事法務日ニ付高家法筵御参着當日於　勝房
湯有之

一　右同断ニ付御使二条家方尾張中将殿ゟ使者江戸之於
饗場之間湯有之

東叡山御法事日割

三月廿日　百光明供
但シ廿一日ゟ初夜之御法事ニ付、惣衆行法役人
両度出席
一 同廿二日　法花三昧
一 同廿三日　法花八講
一 同廿四日　千部御経開闢
一 同廿五日　千部御経中日
一 同廿六日　千部御経結願
但シ廿八日ゟ初夜之御法事ニ付、惣衆行法役人
両度出席

一 同廿七日　法花懺法
一 同廿八日　御経供養
一 同廿九日　胎曼供
右同断
四月朔日　誦懺忌
同　二日　布薩戒
同　三日　金曼供
以上

一 三月廿四日　御初月忌ニ付、御三家方尾張中将殿より
使者ヲ以差上之龍脳燭ニ而香奠被献備之
一 松平右近将監殿今日々御霊前ニ而拝礼　候ハ

一 三月廿五日　御法事ニ付而取扱之間諸御参詣有之
出仕有之於席之間之
　上使　酒井雅楽頭
一 御法事中右諸大儀ニ付　思召候　上意之趣被仰
其外是迄御役人江被仰出之　御使同人
　日光准后
　日光新宮
一 同廿七日
　檜重一組
　銀眼園一箱
　柳之間
　大御番頭稲葉紀伊守組与力
　成川孫七郎

同　同人組　原田孫之進
一 右者京都ゟ　御用物為持参候ニ付主殿頭殿被渡之
従二條表向下組迄　御法事ニ付
一 来正月八日
厳有院様御法事御執行ニ付右京大夫江被仰付候事
　寺社奉行　戸田因幡守
　勘定奉行　松平伊豫守
一 右者当月於上野
厳有院様百回御忌　御法事御用江　被仰付候旨
於芙蓉之間御老中御列座主殿頭殿ゟ被仰渡之

松平伊豆守
右同断ニ付依之法事中勤番〆　伝付有之同人〆
伝添之
一 光円寺差出之法度書
大猷院様　御葬送御法事中黒門台中江
東叡山凌雲院清水口内国様大名衆ゟも人
之を侍四人被出候番人等之履之者之人五人宛
之外ハ不為無用ニ候若雨天之時ハ蓑笠等可然候
以上通之以外又之者一切停止事但宿坊有之面
之ハ之為可参事也
右之面々日限覚

三月廿二日　御三家衆登城ニ而有之事
松平加賀守も為登城事
廿三日　広間ニ而御門跡衆登城ニ而有之事
諸大名同嫡子ニ而為登城事
廿四日　高家衆諸大名衆参着面々同嫡子並ニ之面々諸役人中中奥衆面々
廿五日　日光門主為登城
廿六日　布衣以上之諸役人医師両日之内登城
廿七日　以為登城可申
廿八日　寄合之面々以為登城事
廿九日　諸番頭小役人二日之内登城以為登城之事
四月
朔日
二日

一 右朝四ッ時ゟ九ッ時迄之内也　雲客衣冠大紋布衣之面々英
法師法眼者其装束也　右之外者御年団長務者之ハ為
参詣ニ而乗馬其団勢黒門前橋之外ニ而下乗
四月四日御法事相済候ニ付惣出仕有之
一 大納言様御法号
孝恭院様と奉称旨被仰出之
孝恭院様御霊牌其外法会法席所ニ於
御廟所ニ而参詣之面々 勅使門ゟ出入有之ニ付下乗之
儀者 勅使門前東西ゟ下馬札建有之ニ付右場所より
下乗いたし候事
一 勅使門前往来之儀下乗札ゟ内ゟ来候

右之通申上候以上

雑談

法事ノ座も見ゆうた雲伯の池原切る花出ル浮池原ゟ
田沢力風洩吹の甚え浮まれの花咲見聞てある本堂の
御霊様も見うし拝み事もあり流あらし
拙者も見たた　法事の座之　ちゝのみ経之　御花出
かゝしいよ　雲伯出之　まあ見ん　公家衆
あの花法流　ほか中　みなんし　小督法之
いろいまき見え　法連法服御　かしらす見ん　法衣絹
こよ其帝のと　法衣君　こゝ今も見え見ん　是
見えかへうかけ　見えし日向出る

坂布大登勤

ありものとさの旅まつり 名物時鏡 并り 支ふりの急

志よ之ひ志やうのこゝろ 諸人金箔之板

志やうのよ いとゆ休し 風の音

世間のさゝやき

大地ふるひ

[redacted]

ろく志やく みのえを が

非番讀 仕ル

大夏末此有様 さのみ不替 世のありく

一 御しきあとおさまて ゑあくのこと済まさく つきい年がら 於朝に ゆうた那姐

一 今度のことハとゝりしことのゝ行末が 近江の小旅を

一 けふハそのよみからきこめ 大みそかのとし

一 さうても 済けさう

一 安子勤ル身ふ

一 因果 のびハ耕先のことよそび節まて済くが

一 此節のくわしく知りしもくよろし事が済らつ此度せたる大坊丸 こゝに済のせかく

一 志あがらゆんあつたらくだ勤ル行ルする様のことが やくしの三郎

一 志ともま尤ルらせまひろんあるもの志んかい済三八大きされ 気が尾おぞ

一 今やうくのせまいも八済ぬかう裏店へそル こゝろ若三

一 色いう新め一家ん勤るゐ人の家ら志まし山先のんの 気ま那たまへ

一 物わしく分ぜ乂のまうい志ぶ時のゑ様 志まきあ 出入三郎

一 衣裝や道具志後く志らや一 はこべの別面

一 ふる道まきく八出ずらす好み 気志か親ぜゝふ

一 志らし新ゑるの取志地獄へ落るぞら手物みしめと 三段の行貝八

一 難ハ叶ましくよのせんとゆうつくくふしと 済七森様京屋

一 此度志ゆまうてふ難渋立よかてとやつくか行も 済津の三郎

一 能い仕済ても有やまして家し 出のま 山田京ちハ云ハ

一 志分のゝゐるいてとしの三分よいてとが 七分の家来へ

一 人の身のゝきゝ時しくよ承るう 京の太郎

一 あ南の此ことし上済てゆのんとくまうてに済涂 うみの十内

一 りゝかほとゝろえいき覚の
一 此後かくらち[illegible]

一 雍耳ふえい满ゑ之[illegible]
一 さうくしも分りてうう
一 ゑおりしよいことも[illegible]
一 [illegible]勤むへし 未戚

千穐萬歳

安永八年

大可

[illegible]

版元九内町

西九二言兵衛正

御役[illegible]

あら[illegible]の[illegible]御と申[illegible]津田主務上野[illegible]

家々町々[illegible]両御[illegible]金は百年[illegible]

[illegible]

さらまし

両々[illegible]

一つ橋[illegible]

御忘中八京

御[illegible]場の 落居

主伯が [illegible]

町々の [illegible]

上戸の　こんく
増上寺の　秋の月
泉水中の　暮壹
猟師の　油紙
雛店の　波雨

二幅対今時ない物尽

御上より　成子のない
若衆より　芸のない
流行の医師より　薬のない
流目付より　もののない
佐渡守より　情のない

あんまに　相のない
丹波与に　知恵のない
御菜末より　湯の[illegible]
増上寺より　徳のない
紀州より　知恵の[illegible]

検校より　杖のない
幾君より　十分のない
芝居より　入のない
大馬より　文のない
西丸より　見物のない
借金より　利てのない

いろはまんの

めるかと是傷虫の成大病
流る丸医師兄も有合ふ
にて人送侍也と思ふにて
へいたの病也と抜けさせて

主殿頭より　情のない
表末より　芸のない
雲伯より　面目のない
日向守に　楽のない
方くより　雛のない
文七出替に　金のない

は扁く打すらは右対と
ほんふ人と手にさらに次
とほうにてくまりし奥表

ちかふたかくしも白とらの
鶴まりたらとまくて国なり
みとめまて生れし町くさ
うれをのまるも知るしこと
たんさのひみのかさ首尾定て
その中にて又船にのりし公
ねくみらあまれもの望夢
らちくこたいとにつくふらう
えんの人さわえ赤大橋
の川知紀あつめ暑い在と
そこにある金をすこしみも

りうちんつらん出おいやさえ
るいもたらはとりつに然
いきえまかりくにみとたく
よふいあつ紀のけまされ
れいの相知りまえ立物
つるもおれくと金をふけ
たくめんうえるもし
出まつ乃やよれの出家道
いまれかひはきまさ元
松わくふ献ひ出にるより
やりしこまれつく麻

まことに空くもれんとかたくも
らくつとをあひの出家よ極
にいほつもなひつとはれの
あんなおもへとすひとをの
よりまゐくうつるのく金ひ
めい君はよるの浮世極
し海波風猿し乃家
ひとつもとおひうん浅りし丸
さん秋の万歳第く歳
京は田舎も一同なりし　うつひのかそへそ田へうたりれ
徳川をて橋ちの源まとゆる田沢知るひそ清水のえ紀出る

せん殿くことへやめおりこそ
これは出家にようこえ遊
さんの小屋にこおめもさん
さいたら燈れくまにしそ
田くまと極とそれも乱
みとほ取ひはわるめ八
そこもあまさなは代々絶
まなや物語も出家こと
すそふおもの熊みて

扈従夫数

明六ツ時ゟ夜五ツ時迄
壱万百五拾本
明七ツ半ゟ夜五ツ時迄
壱万七拾本

竹中越前守子
松平右近将監末
山口長吉 十歳

御勘定
清太衛の惣領
大貫六郎 十二歳

一 四月朔日月並出仕有之
御表出御有之

一 同三日
氷御糖一箱
大御法事御法会ニ付被遣之
御使松平出羽守書
日光准后

銀子　枚
時服廿
日光准后
銀子　枚
時服十
同 同人
同 新宮

一 右御法事ニ於廟所被行之
同四日御法事ニ於廟所被行今日出仕有之
尾張中納言殿
水戸宰相殿
尾張中将殿
右之面々為御
御忌明ニ付綱一折宛献上之
御座之間

御乃儀茶之室　板倉佐渡守

一 大此度御用相勤候ニ付　代金十五枚　御目見相済候者とも

時服六　加納遠江守

一 大御出棺御用相勤候ニ付　御目見相済候者とも

寺社奉行　土岐美濃守

牧野豊前守

大目付　新庄能登守

一 右同断御法事御用相済候ニ付　御目見相済候者とも

秋元摂津守

一 右御法事中勤番相済候ニ付　松平紀伊守　御目見有之

一 今日五十三回忌ニ付　御焼香有之　右ハ畢

一 同五日今四半時御法事相済候得者上御庭江被為入

献御馬有之七ツ時　還御

一 同日夜五半時ゟ麻布市兵衛町ゟ出火九時ゟ消候

一 同日夕方ゟ夜ニ掛雷雨有之候處無事相済

一 四月廿一日

干菓子一箱　上使水野用人　持上ル方丈

右者

孝恭院様御法事中ニ付被為遣之

一 四月十二日於増上寺
孝恭院様御法事御法会ニ付
御名代 佐渡守
増上寺方丈

一 右同断ニ付御香奠之
白銀弐百枚

一 今日
孝恭院様 御四年九日也

一 續從海巻之六拾 安永八己亥歳四月

一 同十四日
御服物二次津国代金二拾枚 上使本多大夫 尾張中納言殿
同断衣貝代金二拾枚 同 同人 紀伊中納言殿
同断守津国同二拾枚 同 佐渡守 水戸宰相殿
同断献中国之長同拾枚 同 石原大夫 紀伊前中納言殿

同　引紙中国二ッ宛同十枚　　同　同人　尾張中将殿

同　引和紙色紙同十五枚　　同　備前守　松平加賀守

同　引緞子繻珍同十枚　　同　侍従　松平紀伊守

一　御指御刀　代金同拾枚　　同　侍従　宮内卿殿

同　御脇指　守家　同五枚　　同　同侍従　

同　御刀　金國行　同十枚

同　御脇指　正宗　同五枚　　同　同人　民部卿殿

一　御脇指　兼光　　同　同人　豊千代殿

一　御刀　銘利光　　同　同人　力之助殿

一　御印籠　香箱　　同　之殿　日光准后

御料紙硯　　同　同人

　　　　　　同　新宮

御印籠　香合　　同　安房守　松平紀伊守

右之通

孝恭院様為御遺物以上使ヲ以被遣之

羽目之間

隠居養子　松平中務大輔

中務大輔嫡子　松平上総介

御花籠壱對

御刀掛刺卓此花瓶之

一 右同所ニ並為同断飾之　相済

一 同月十六日月並御禮御表此所有之御禮允

御役替有之

一 今朝六ツ半時頃西国寺辺より出火之處

一 同月十六日

芙蓉之間

西丸新御番頭　牧野式部

西丸御留守居

西丸御納戸頭　米倉伊右衛門

二ノ丸御留守居

右之通り被　仰付

阿部豊後守

右御本丸老中之衆より只今満目朝之下より出火急之

及御張之者ニ御用部屋十人手ニ致

御之間　御目見

奏者番

御本丸　鳥居丹波守

酒井[illegible]守

右之節 奥ニ而 御目見ゝ

西丸御書院番頭
戸田但馬守
小堀下総守
酒井對馬守
水谷伊勢守

是ゟ道
西丸への御成

同 小性組番頭
大嶋肥前守
酒井紀伊守
森川下総守
花房周防守

御本丸ゟ

是ゟ道
西丸への御成
此時本御殿
此節ゟ又 御目見ゝ

御本丸ゟ

御本丸ゟ

同 御留守居
永井筑前守
奥田山城守
稲葉丹波守

同 御籏奉行
小野日向守

同 御鎗奉行
神保若狭守

同 御物頭
根来長門
加茂登之助

御本丸ゟ

柳生播磨守

西丸御小姓
篠山吉之助
宇津兆金右衛門
山中平左
大井大和守
桂根六郎右衛門
水野清六

同御目付
新庄要右衛門
小出主膳

只今之通
西丸御目付
西丸並ニ
以 勤之

只今之通
西丸ニ而 勤之

保々兵十郎右衛門
神尾内記
松平多宮
小野次郎右衛門

同御書院番組頭
野々山新兵衛
菅沼八郎兵衛
内藤左七
平濃伝右衛門

同小性組頭
能勢半右衛門

御本丸江

清水権之助
青木小太夫
小倉忠右衛門

同 御徒頭
筒井内蔵
山口勘兵衛
秋元又三郎
戸田平左衛門
井上半八郎

御本丸江

同 小十人頭
柳生主膳正

御西丸江

大岡山城守
三枝土佐守

同 御裏御門番之頭
鈴木文蔵
小笠原兵九郎
長田伊織
井出新八郎

其外之道
西丸之面々

右権現様御廟之間至中列先例御座候ニ付其後参集
出御於外先

西尾小性組
大沢兵部組

以上拾七人

酒井能登守組　此十六人

森川小膳組　此十七人

花房周防守組　此十参人

同御書院番

戸田伊賀守組　此十五人

小堀小膳守組　此十六人

酒井對馬守組　此十四人

水谷伊勢守組　此十弐人

右之通ニ而　御弓鉄炮之間ニ預ケ置年々別々ニ出居候ニ付

江　伝役之候処門前

西丸御書院番書之段

吉野左仲

高沼伊次郎

青山清左衛門

成瀬熊次郎

坂本伊兵衛

井戸惣右衛門

同御目付廣式郎

曽我源次郎

参り候通

西丸之番

御本丸ニ
而 御役替

御本丸ニ
而 御役替

只今迄之通
西丸ニ而相勤

同 表坊主衆
中村吉左衛門
中山弥右衛門

熊沢彦次郎
杉山五十郎
本山織右衛門
野本文右衛門

同 御納戸
馬場善兵衛
山崎六郎右衛門

同 小十人組
中沢与十郎
松井忠右衛門
笠原弥五郎右衛門
浅村加右衛門
中西安次郎

同 御馬役
村松仁兵衛

同 御馬方
岩波忠右衛門

同 田安番
村松代七

御本丸ニ
而 御役替

御本丸ニ
而 御役替

只今ハ三之進
西丸ニ而相勤

御本丸ニ而
御番也

只今ハ三之進
西丸ニ而相勤候

同断

同表御番衆
岩波十左衛門
高月八之進
中井篤右衛門

同御広敷御用達
林友右衛門

同御次御番頭
瀧野新一郎

同御同朋衆
河北宗悦
本田丹悦

当分

同断

同断

同断

同新御番衆
松平但馬守

同御広敷御用人
三上兵太郎
河北源右衛門
辻源六郎

同小十人頭
渡部々兵水

同御納戸頭
馬場藤左衛門

同新御書院頭

小普請入

大嶋与惣平

大井半九郎

同 小性組番衆

神谷兵八郎

松野六郎兵衛

杉永五郎大夫

同 小納戸

鈴木三郎右衛門

深沢与平郎

葉村彦太郎

水野茂右衛門

同

同

同 表右筆

辻 保之助

蜷川喜左衛門

蘆屋平郎右衛門

根本権二郎

富田仁二郎

枝 宗右衛門

山田重水

秋山松之丞

佐野又四郎

井上源十郎

壺山五六郎
野本十右
与倉加十郎
千山佐源次
同小十人組
加藤源次郎
松尾伝十郎
同御徒新組頭
猪谷新次郎
内田文右衛門
同御蔵奉行御目付

御賄方右衛門
村上兵右衛門
右之通以　御目付御徒目付小普請組頭割元御渡人
侍之儀同前
御本丸割合
以　御目付
両丸新御番衆
牧野式部組　十四人
松平但馬組　十四人
右箱中之間御渡人以　御徒頭之割元侍之儀同前
同御腰物方
国頼市右衛門
石井武六郎

御本丸下
御役附

同断

小野八三郎
富永兵十郎
水上太左
永久保三之助
山本三九郎
浅香彦四郎

同御納戸

富永伊左衛門
和田主税
朝倉留助
南條権六郎

同断

伊奈傳右衛門
長谷保三助
矢野叙蔵
矢北右京
桃永小十郎
井上虎之助
横山宇右衛門
大葉清右衛門
上北平右衛門
菊倉金蔵之助
川瀬次左衛門

右従御本丸御徒衆江同人ゟ御役列之儀申合

西丸小十人
御徒目付組頭
弐十二人

同
大番山城守組
弐十壱人

同
書院番主殿組
弐十壱人

同
御徒頭水野組
弐十六人

御本丸上ケ之覚

御徒頭水野組
御本丸割合

以上
御預之

右於溜之間同人ゟ
御役列之儀同人申渡

西丸書院之書院

以上之通り申渡

同断

同断

同
御徒目付組頭

向井平八郎
徒目付次郎助

同
御書院番[illegible]

森
勘右衛門

原
権之丞

山田治郎右衛門

渡辺五太夫

池田喜兵衛

窪田八右衛門

吉田彦二郎

只今出來之通
一ノ御蔵に
御本丸より　守
只今之通
西丸ニ在之

同　山里御番衆

岩瀬源三郎
羽山善次郎
川村鉄之丞
中村安右衛門
高橋吉四郎

同　表坊主組頭

宗悦
文庵
文淋
秀長

同断

同　御徒目付

増田友之丞
芳賀源左衛門
川村弥右衛門
織田武太夫
石川三太夫
上村小次郎
山上熊吉郎
青木安右衛門
村田八十郎
三木幸次郎

御本丸江
右同〻

同
同
水野甚蔵
野中兔右衛門
山本忠五右衛門
飯田市太郎
矢田八右衛門
山本名右衛門
中山藤次郎
河合萬之助
竹〻水新之助
三橋金右衛門

御本丸江　御

同表火之番江　御

奥火之番
本田甚右衛門
多賀虎之助
黒川金蔵
松之谷新九郎
小田切孫右衛門
村越権之助
渡辺丈右衛門
荒山彌十郎
原田文右衛門

同表火之番

只今ニ而迄
西丸ニ而相勤

大沢彦兵衛
多賀甚右七
米沢大助
高木小十郎
川沢伝次郎
遠山彦十郎
長谷川昌右衛門
久野建兵衛
小沢新右衛門
篠田宗右衛門
石井金之丞

白石八之助

御本丸表御台所組頭
右 代官ニ
同御膳所御台所組頭
右 代官ニ
只今ニ而迄西丸ニ而相勤

同御膳所御台所組頭
中村茂右衛門
小椋治助
今井半六郎

同表御台所組頭
窪川半内
清水文蔵
吉田半右衛門

同断

右諸焼火之間若年寄中列見学所取扱役
西丸奥御右筆組頭

寛政十午年六月廿八日　御目見以上之通
此度書院之御絵御用相勤候

同　奥絵師　長坂忠七郎

御手九一右宛

同　奥絵師　狩谷之丞

同寛政元年以　御絵之

同　同断

川井新右衛門

千山八右衛門

服部市太郎

西村磐次郎

遠山市太郎

右絵図其外相済

同　御用部屋坊主

一　御手九下右宛

参宗

之助

之進

同日御書物出

阿部豊後守殿以　御書付

此度御礼書物其外御三家始諸大名其外共ヘ向

後見之儀之通り下書付を以相済候由奉之通

左国立趣之々申合其所ニ而達候様書付之通

添状ニ

一　額書之儀御本書入候

右之通り下相済候

一　同月
鳥居丹波守
酒井飛騨守
右若年寄之末ニ被仰付候　御書出礼并
向後若年寄之通ニ被心得、一之儀ハ左国之巻之
若年寄ト連判ニ被致、丹波守・飛騨守ハ
連判ニ不及候

一　御触書等之儀、新番等ニ而書遣候ハ
右之通ニて相勤候
同月

一　同月十八日

西丸御側　小笠原若狭守
御本丸御側ゟ　替
同所
佐野右兵衛尉
菊之間御縁頬詰ゟ　替
大久保志摩守
大久保下野守
桐之間詰ゟ　替
本堂伊豆守
同所小性
津田能登守
溝口相模守
内藤加賀守
中奥御小性ゟ　替

御小納戸頭取格之次　席

西丸様附泊り当日番之重立之次　席

同小納戸頭取

遠　伊賀守

同小性頭取

小笠原大膳亮

米倉和泉守

安藤駿河守

本多但馬守

御本丸御小納戸之次　席

同御小性

多賀　大炊守

山川　織部守

同断

御本丸奥之次　席　西丸奥御醫師御免義

同断

小川　玄達

寄合之次　席

新番頭格之次　席

西丸御小性

同御小納戸

同御側

水野　采女

大久保　源蔵

御側御免之次　席之

又山城守居城之次　席之

御本丸御小納戸

丹羽　[illegible]守

松田　彦十郎

西丸より之御使
満日ニ付為御尋稲葉
越中守殿より御通し

篠本忠三郎
篠山小太郎
黒田源右衛門
白根源次郎

一 同月廿四日 御黒書院出御
御老中之間
尾張中納言殿
御帳

一 同月廿六日 表勤之御祝有之
女御所御安産
姫君様御誕生
京都御使済り

御広間 御目見

一 其廿日今暁七ツ時過小川町御屋敷より出火
自火ニ而家作不残焼失長屋門計残ル

右家
土屋右京亮 修理殿

一 同廿二日
附後之覚
上席之間
大久保美濃守
牧野越中守

右
孝恭院様 御出棺 御葬送 御法事 御用向相勤候
大目付

同百疋

作事奉行
新庄能登守

同
小普請奉行
山村信濃守

岩本内膳正

同三疋
御目付
村上三十郎
山川下総守
安藤金右衛門

右同断并ニ菓子〳〵
御賄頭

銀十枚
表御右筆
根本善左衛門
熊沢嘉左衛門
長谷川民之丞
肥田讃右衛門

同〻
御勘定組頭
若林市右衛門

金五枚
小普請方
清水文八
松浦文右衛門

銀十枚〻
御畳奉行

銀五枚
福嶋吉太夫

金子二枚
御年寄（？）
神戸八太夫

同
同御小性
五嶋多左衛門

銀四枚ツヽ
御小性
菱木豊右衛門
川納仁右衛門
浦妣彌五郎
岩本源十郎
根岸吉五郎

福嶋又四郎

銀二枚ツヽ
支配勘定
内藤三郎右衛門
米倉次郎兵衛

右同断一番多忠度出雲守殿米倉丹後守殿

土屋間

金三枚
奥御右筆組頭
橋本長八郎

銀三枚ツヽ
同御右筆
佐藤百助
吉田熊次郎

一 右同断

一 此月廿日大名衆所帳ニ載之

時服十　　田沼主殿頭

右西丸御祝儀出座ヨリ御用相勤候ニ付被下之

同六　　酒井石見守

同五　　稲葉越中守

右同断

一 右給 奥祐筆へ

一 此月廿八日

時服三拾　　御白書院番頭 松平主殿頭

右淺野因幡守跡川之御用相勤候ニ付被下之旨申渡

別々之者ゟ相渡

時服 二　　黄金弐両 石川治部少

金 五枚　　御目付 大久保彦右衛門

同 拾枚　　小普請奉行 倉橋與四郎

一 右同断

銀弐百枚　　日光准后

同 百枚　　同 新宮

上野

大猷院様　　嚴有院様 御霊屋

右正遷宮　御供米等木殿寺ニ差上ル

於東叡山御法事

五月

廿日　初日　廿三日中日　廿六日　結願日

厳有院様百回御忌御法事也

一 此月上旬ゟ小石川伝通院前仁左衛門店ニ去ル人
有之生霊子ニ而右町奉行所ニ而此事被仰付
り其後如此其後奉行所ニ而宗門書付差出
候者ハ浮気仕候しそこなひし御払ニ成候由
事ニ在り

落書

[illegible]

本外帳

[illegible]

本外帳四

[illegible]

仏教十方衆生の冥途にまよふや哉つるゝ公案の御法かな
と思ふてしる川をまつ縁にてしつ并嶺中に入事有
政年に針のめくらし政所蔵にて是しとかく更には
しやくせと送る高なる櫻家の本地ただ如くに
生ハ薬も萬法すくいしるうんまん無りしと無く数

日本政府図書
内閣文庫

国立公文書館
National Archives of Japan